

平成23年2月

王中志 学位論文審査要旨

主 査 村 脇 義 和
副主査 渡 邊 達 生
同 長谷川 純 一

主論文

Protective effects of ginger against aspirin-induced gastric ulcers in rats

(ラットのアスピリンによる胃潰瘍に対するショウガの保護作用)

(著者：王中志、長谷川純一、王心慧、三浦典正、松田明子、徳田卓裕、渡邊達生)

平成23年 Yonago Acta medica 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は幽門結紮とアスピリンによる胃潰瘍モデルラットを用い、ショウガの胃粘膜保護作用機序の検討を行ったものである。その結果、ショウガがアスピリンによる胃潰瘍発生を抑制する機序には、胃酸分泌や胃粘膜プロスタグリンE₂活性への作用は関与せず、胃粘膜での誘導型一酸化窒素合成酵素活性増強抑制作用ならびにインターロイキン-1 β 、腫瘍壊死因子- α などの炎症性サイトカイン生成抑制作用が関与していることが示唆された。さらにその作用はショウガの主要成分であるgingerolとshogaolに起因していることが考えられた。本論文の内容は、消化器病学ならびに代替医薬の分野において、明らかに学術水準を高めたものと認める。